



教育 おおらか・さわやか・さわやかな大崎の教育

問 教育委員会管理課 ☎476-1111(410)

◆夏季休業中の研修会

小・中学校の夏季休業に併せ、教職員を対象にした研修会が行われました。

教職員教科実技研修会（7月29日）では、野方小学校の竹内校長先生を講師に『教材文の見方・読み方・考えさせ方』の講義が行われました。国語の教材文『大きなかぶ』をもとに、授業の進め方について考えました。竹内校長先生から多くのアイデアをもらい先生方の考えも広がりました。

また、教職員指導力向上研修会（7月31日）では、県教育庁大隅教育事務所の溜指導主事を講師に、『学校におけるICTの活用』について講義が行われました。

どちらの研修会も、教員の指導力の向上を目的に開催されました。児童生徒の学力向上のため、研修に取り組みされる先生方の熱意が強く感じられました。



まぶい窓おしえの庭

『自立心を育てる』

NO.32 持留小学校 校長 小出水 芳子

多くの親が子どもに願うことは、健康に育ち、立派な社会人として自立してくれることではないでしょうか。

若い頃、先輩の教師が、「今の親は、自分が子どもよりもずっと長生きするつもりでいる。いつまでも子どもの面倒を見ることができると考えている。」とこぼしていたことを思い出します。忘れ物をすぐ届ける、車での送迎、基本的な躰がなされていない等々の状況を見ての言葉でした。これでは子どもの自立心は育たないというわけです。それが話題になる度に、子どもは厳しくしっかりと育てなければと思ったものでしたが、いざ自分が親の立場になると『過保護』とまではいかななくても、子どもが失敗しないように、困らないようにとつい手や口を出してしまう姿がありました。それも子を思う親心ですし、決して否定するものではありませんが、子育てを終えた今、果たしてそれは子どもの望む姿だったのだろうかと思ってしまうばかりです。

自立心の芽生えは幼児期からあり、子どもは何でも自分でやってみようと探究心も旺盛です。そして大人が考える以上にたくましいものです。子どもは成長の過程の中で、さまざまな生活体験を通して自信を付け、目標を持ち、判断力を身に付け、自立する力を養っていきます。親の役割は、子どもとのほどよい距離感を保ちながら見守っていくことです。このほどよい距離感、親の在り方を示した『子育て四訓』というものがあります。

- ・ 乳児はしっかり肌を離すな
- ・ 少年は手を離せ目を離すな
- ・ 幼児は肌を離せ手を離すな
- ・ 青年は目を離せ心を離すな

先の先輩教師の話は、もう30年も前の話ですが、今の親や祖父母の世代にも当てはまることではないでしょうか。現代の子どもたちは、祖父母や親の世代よりも厳しい社会を生きぬいていかなければなりません。自立心を持たなければならないのは、大人の方かもしれません。子育て四訓にあるように、大人が強い心を持ち適度な距離を保ちながら、子どもを見守り続けることが子どもの自立心を育てることにつながるのではないのでしょうか。